

令和 5 年度 極楽苑事業報告

1.事業の実施状況

令和 5 年度における介護事業全体の取り組みとしては、①ケアの安全性と質向上、さらには業務の生産性向上に向けた ICT・介護ロボット（福祉機器）の導入、②安心安全な生活を守るための自然災害及び感染症 BCP（事業継続計画）の運用開始、③「幸せを支える栄養」をテーマとした食を通した心身両面からの支援、④多様化する地域ニーズへの対応を行いました。

①については、介護リフト導入にあたり、プロジェクトチーム（介護福祉士・看護師・機能訓練指導員の専門職）による介護・看護スタッフに向けた研修及び検定を実施し使用時の安全確保に努めました。また、より多くの情報を効率よく共有できるよう記録用タブレットの改良を行いました。

②については、令和 6 年 4 月からの義務化を受け策定した BCP（事業継続計画）の内容に基づき、自然災害の発生を想定した避難誘導や炊出しなどの訓練を実施、また感染症の発生を想定した研修を通して、感染拡大の防止及び事業の継続に向けた計画について職員への周知を行いました。

③については、季節を感じられる行事食や特別メニューの提供に加え、おやつ作りレクリエーションを通して、作る楽しみや達成感、食べる楽しみや喜びを感じていただくことができました。また、認知症予防や治療に効果的な回想法も取り入れて実施することができました。

④については、嘱託医や地域の医療機関と連携を図り、慢性的に医療が必要な方の受け入れや、看取り期に入られた方にも穏やかに尊厳をもった生活を送っていただけるよう努めました。また、緊急時にはショートステイをご利用いただけるよう、迅速な受け入れ対応も行いました。在宅サービスでは、居宅ケアマネジャーによる地域での行事参加や高齢者いきいき相談室・認知症カフェの活動を通じ、地域との連携強化を図ることで地域ニーズをいち早く把握し、必要なサービスに結び付けることができました。デイサービスでは、コロナ 5 類移行を受け、営業活動を強化しご利用者向けのパソコンコーナー設置など、居心地のよい居場所作りに努め契約数を増やすことができました。採用面では、特定技能実習生 4 名（ミャンマー・スリランカ・ネパール）の受け入れを行い研修指導に努めました。地域活動面では、高齢者いきいき相談室、名古屋市認知症カフェ、中学生学習支援事業、喫茶、傾聴ボランティアの受け入れを継続して行いました。